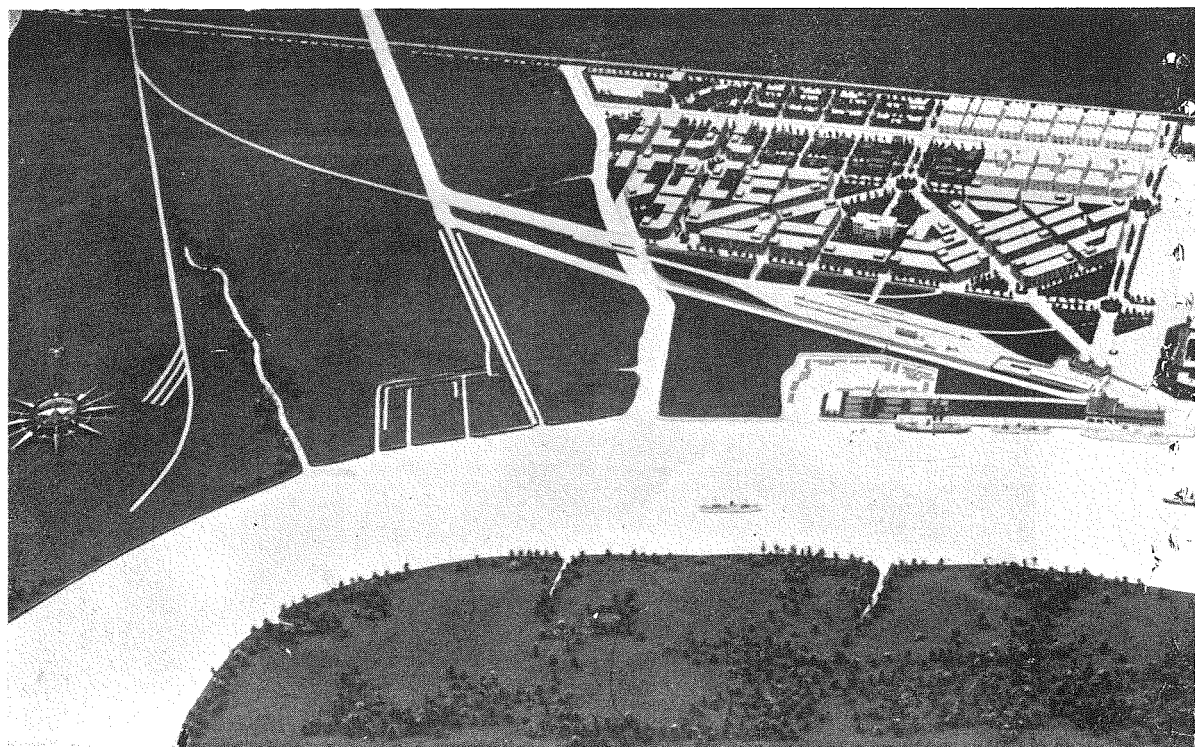


斷然世界を壓倒せる我港灣技術

數千萬圓の大築港計畫を
晝夜兼行僅か半月で作成
盤谷港の世界競技に大勝



シヤムの首都バンコック港修築の世界設計競技に参加した日本が、歐米各國を蹴落して斷然一等に當選し港灣技術に萬丈の氣を吐いて世界の技術界に一大センセーションを捲起して居る。

シヤムの政府では同國の首都バンコック港を約4,000萬圓を投じて築造することになりその築港計畫を世界各國から募集したが、英米佛獨伊を始め22ヶ國がこの世界競技に参加し各國何れも智囊を絞つて自慢の設計を提出した。我國でも本年8月シヤム政府より外務省に参加勧誘があつたので、同省からの依頼に依つて内務省土木局第一技術課長鈴木雅次博士が中心となつて、藏重、島野、原田、坂本、比田、佐藤等の技術官が晝夜兼行で設計

を急ぎ原案を作成し、更に大藏、鐵道、遞信關係の技術官を網羅せる委員會を港灣協會内に組織し、坂本丹治氏を委員長として原案を審査して最後の案を決定、三井物産の手によつて九月一日シヤム國政府に提出した。然して世界各國より集つた應募設計書の數は英米佛伊を始め22ヶ國で、其内日本、ドイツ、デンマーク、シヤムの4ヶ國が選抜され、更に嚴選の結果、我日本が遂に一等になり、他の3國は日本の半額の賞金を獲得した。此決定は11月16日で、17日夜シヤム政府から其旨の入電があり關係者一同凱歌を擧げて喜んだのである。寫眞は参考として提出されたバンコック港の模型で、齋藤模型製作所の製作に係り、精巧なものである。

